

第2回総会

1. 日時、場所

平成24年6月16日（土）14時00分～16時00分
経済産業省本館地下2階講堂

2. 参加者

会議メンバー、サポーター 約170名

3. 参加者の主な意見

第一部

- ・（会議の場において）支援を受ける側の中小企業の自立、自活の重要性を指摘する発言が多く、日本にはまだ未来があると感じた。
- ・若者が自ら歩んで考えていくことを手助けするための取組を大事にしたい。経産省の政策を有効に広げて使いやすい環境を整えるための取組を、地域の小さな所からも進めていきたい。
- ・政策として「産業での活用を見据えた語学教育」を人材育成支援の政策として取り入れるべき。
- ・中小企業金融円滑化法の期限切れを迎える状況で、金融機関と中小企業者の情報交換を真剣に進めていくべき。
- ・国の政策等の情報をいかに国民に伝えるかが重要。
- ・再就職後のインターンシップ支援につき、成果をあげられるようなインターンの実施（女性がチームを組んでインターンする、等）を支援していくことが重要。
- ・企業の人材戦略につき、採用という入り口の人材獲得の部分も重要であるが、現在雇用している従業員が企業から流出することをどう食い止めるかという点がより重要。
- ・従業員がやる気を持って働けるような労働環境を全国で整えるための政策が必要。人事・労務の課題についても、今後検討を進めていくべき。
- ・女性の活力の活用がどこの職場でも不十分に感じる。

- ・女性同士（海外の女性も含む）のコミュニケーションをとるツールについても支援して欲しい。
- ・中小企業も海外の市場開拓に力を入れていくことが必要。海外の市場開拓にかかる障壁を出来るところから減らしていくための支援が必要。
- ・中小企業の人材獲得に関して国が支援するため、メディアを通じた広報についてもっと力を入れるべき。
- ・技術伝承については、日本企業の技術が海外に流出している点が一番の問題。
- ・技術を持っている方と若手技術者が交流を持つ機会を設けるような取組を積極的に広めていくべき。
- ・買い物難民を生まないためにも、商店街と住宅をセットにした形でのコミュニティ機能の強化のための取組が重要。
- ・未来会議で小さな企業に光を当てていただいたことに感謝。また、地方への丁寧な政策や地域での人材育成、定着に対する政策をとりまとめに盛り込んでいただいたことに感謝するとともに、今後の政策に期待。
- ・優秀な女性を働きやすくするため、子どもが保育園や学童に入ることにに対する経済的支援をしていただきたい。
- ・金融機関においては、担保力だけで判断するのではなく、企業の成長性・技術力もしっかり判断して、円滑に資金を供給してほしい。
- ・既に現在の施策でも実施している部分もあるが、そのことに加え、中小企業診断士、弁護士、税理士等がチームを組んでサポートができる「知識サポート」の仕組みは良い仕組み。
- ・若手経営者の育成だけでなく、若手専門家の育成も支援して欲しい。
- ・知識を得た上で、その知識の活用を支援できるようにすれば、多くの経営者が変わっていけると思う。
- ・商店街に対して必要な支援は、財務諸表が読めるコンサルタントではなく、

素敵な空間作りのデザインなど極めて専門的な経験に裏打ちされた支援。

- ・ 知識サポートの実現においては、多様な方々の実務経験に裏打ちされた支援を受けられるようにして欲しい。
- ・ 今後もこういった機会を作っていただき、その時々や地域に合った支援策を国・行政・商店主・企業主と語り合うことが出来れば良いと思う。

第二部自由討議

- ・ いただいた意見や成果をもとに、今後、制度なり仕組みが変わっていくと思うが、この未来会議がきっかけとなって変わったものを分かる形にしていだきたい。
- ・ 未来会議が日本国民に広く浸透する会議であって欲しい。また、PDCAがしっかり回るようにするためにも、会議を継続して欲しい。
- ・ 中小企業憲章を国民全体にもっと周知していただくことが重要。
- ・ Web上での意見を施策に取り入れていくことは大変良いこと。しかし、その前提として、施策の優先順位付けやスケジューリングを行うことが重要。
- ・ この未来会議を継続するにあたり、最終的な取りまとめを国が行うことも考えられるが、あくまで運動していく場合は中小企業関係団体を絡ませた形での市町村レベルで行うべき。
- ・ ネットワークの構築方法において、Webでの取組を商工会議所や商工会等でも担ってもらえることは出来ないか。田舎の中小企業にとって、Webは相当な抵抗があるのに対し、商工会議所等との間は密接な関係が築かれている。
- ・ 起業率に比べ廃業率が高く日本経済の将来が不安。また、創業5年未満の企業に対する助成は各種あるが、旧ビジネスへの支援もお願いしたい。
- ・ 借入れの際に、自宅の全てが担保となることがあるが、この点は検討すべき。
- ・ 女性経営者団体を作ることが必要な時代ではないか。
- ・ 金融機関の目利き力を上げるためにも、支援機関の育成が必要。

- ・ 中小企業から発信する技術はたくさんあるため、発信できる機会を増やすべき。
- ・ 中小企業、それぞれのステージに合った金融政策を考えていただきたい。
- ・ 成功体験の共有は大切。中小・小規模企業の経営者の方々による成功体験は、人・モノ・金・ブランドがない状況からのものであり、大企業の経営者にとっても参考になる。
- ・ 今後の未来会議の進め方としては、テーマ別に分けて開催することを提案。例えば、アーリーステージの企業や事業承継の起業等に特化し、分科会として開催するのはいかがか。また、参加して関心を持った企業同士がその後に情報交換を出来るスペースなども考えられる。
- ・ 新たに構築するネットワークの中に大学や教育機関の力を交え、人材の確保等につなげていくべき。
- ・ 地域コミュニティの中での小規模企業を評価するにあたっては、短期的・経済性だけで判断するのではなく、地域貢献性等への有効性など別の観点からの評価も検討すべき。